

総務教育常任委員会資料

(令和8年9月15日)

ページ

- 鳥取県人口・地域未来戦略県民会議 第1回移住定住・少子化等WGの開催について
【人口戦略課】・・・2
- 地域未来戦略(地域産業成長プラン)の状況について
【人口戦略課】・・・3

人口戦略推進本部

鳥取県人口・地域未来戦略県民会議 第1回移住定住・少子化等WGの開催について

令和8年9月15日

人口戦略課

鳥取県人口・地域未来戦略県民会議第1回移住定住・少子化等WGを開催し、若者・女性メンバーから、ご自身の活動経験等を踏まえて移住定住促進や少子化対策等に関するご意見をいただきました。

1 開催概要

- 日時:令和8年8月 31 日(月)午後1時 00 分～午後2時 30 分
- 場所:鳥取県庁 第2庁舎 4階 第 34 会議室 ※オンライン併用会議
- 参加者:移住定住・少子化等 WG 若者・女性メンバー11 名
県(遠藤政策統轄監ほか) ※庁内関係課も同席



2 主な意見

- 若者定着のため、中高生のうちに多様な大人と交流し将来イメージを持てる場づくりが必要
 - ・若者が中山間地域から出ていくまでに地域で働く魅力、憧れを持つ大人に触れる機会があるかが大事。
 - ・地域活動や魅力的な人と触れ合い、レポート提出で単位が得られる仕組みや社長や若手社員と気軽に話せる交流の場があるといい。
 - ・鳥取に来ることで描けるキャリアをみせるのが大事。若いうちから挑戦できることが鳥取の魅力。
 - ・学生が企業の困り事を解決するアイデアソンイベントを企画したが、企業の本音を学生が知る機会も必要。
 - ・中高生が多様なキャリアを知る機会を増やしてほしい。将来像がないまま県外へ進学する生徒が多い。
- 人と人を繋ぐ、また仕事と住まいと地域を繋ぐ支援組織が必要
 - ・人と人をつなぎ、関係性を構築するための中間支援組織のようなインフラが大事。
 - ・地域との関わり方が分からない人にお節介を。オフラインの安心感は大切。地域の案内人がいるといい。
 - ・仕事と住まいと地域をつなぐ役割の人、組織が必要。移住者にとってはすべてがひとつでセット。数年の時間を要するが、中間支援組織の育成が必要。
 - ・残りたい帰ってきたい記憶を作るのが大事。大人が本気で地域との関わりや子育てを楽しむ様子を子どもに見せたり、子どもが主役になったりする場として、地域の小さなお祭り・行事ができるよう自治会に支援があればよい。
- その他
 - ・カルチャーやエンターテインメントを渴望している人は多い。アートやエンタメを楽しめる拠点を増やし、まちの魅力を高め、発信することが大切。人と人が出会う場所にもなり、移住者や関係人口に繋がる。
 - ・出産子育てと仕事の両立に関する課題は少しずつ解消されてきているが、女性にかなり負担がかかる。子育て施策を皆さんに上手く使ってもらえるよう、施策を熟知して説明できる人がいたらいい。

3 今後の対応

今回の WG やヒアリング等による意見の深掘りや既設の会議体での意見等を踏まえ、本県の人口戦略・地域未来戦略や令和9年度予算等へ活かしていく。

地域未来戦略（地域産業成長プラン）の状況について

令和8年9月15日
人口戦略課
環境立県推進課

地域未来戦略のうち県が策定することとされている「地域産業成長プラン」について、事前確認のため国へ提出したプランのうち、1件が8月下旬に国のホームページに公表されました。

1 公表されたプラン

(1) プラン概要

「ミールワームを活用した環境分野における地場産業成長プラン」

- ・核となる事業者：三光株式会社等
- ・事業概要：県内の菓子製造事業者等から出る未利用食品等をミールワームの餌として有効活用するとともに、ミールワーム由来の天然ビタミンD3等の高付加価値素材の製造とこれらを活用した高付加価値食品・健康食品等の商品化による地域循環型事業を構築する。

(2) 知事による発表等

国の事前確認完了を受けて、以下のとおり先行案件として発表。

＜第5回地域未来戦略に関する関係副大臣等会議・地域未来戦略に関する総理報告＞

- ・日時：令和8年7月31日（金）午後1時30分から午後1時50分まで
- ・場所：首相官邸大ホール
- ・出席者：高市内閣総理大臣、木原内閣官房長官、黄川田地域未来戦略担当大臣、各府省副大臣、地域産業成長プラン先行案件策定首長（10県市町）ほか
- ・総理発言：発表いただいた地域の産業分野や地域資源に着目した特色ある計画を国としてしっかり支援する。今回の計画公表を皮切りに予見可能性の高い予算措置のもと、国と地方公共団体の皆さまと二人三脚で、日本列島に産業クラスターの花を咲かせてまいりたい。

2 その他のプランの状況

フード・マニュファクチャリング（水産）、農林分野（鳥取すいか）、農林分野×製造業（きのこレザ一）の3プランは国の事前確認が進められており、今後事前確認が完了したプランについては、知事による公表等、正式提出を経て、国のホームページに公表される予定。

(参考) 地域産業成長プランの策定フロー

①県が策定・事前確認依頼→②国が事前確認・完了→③知事による発表等→④県が正式提出→⑤国がホームページに公表

3 鳥取県人口・地域未来戦略県民会議 地域未来戦略等WG

(1) 日時 令和8年9月9日（水）午後3時から午後4時まで

(2) 場所 特別会議室（オンライン併用）

(3) 出席者 経済・農林漁業・観光関係団体及び金融機関の実務者、政策統轄監、関係部局

(4) 内容 事前確認提出プランの状況を報告し、第2弾プランの方向性を説明し、意見交換した。

- ・第2弾検討分野：ネクスト・インダストリー分野、サポーティング・インダストリー分野、モビリティ分野、観光分野、農林分野（梨、林業）

(5) 主な発言

- ・地域未来戦略では、他地域との差別化を図るため、各クラスターに地域の特色や明確なイメージを散りばめて戦略的に策定していく必要がある。（商工団体）
- ・人口減少により国内観光客の減少が避けられず、インバウンド強化が重要となる。選ばれる地域であり続けるために、各エリアで付加価値や滞在性を高める取組を進めていきたい。（観光団体）
- ・単一の事業者にとどめず、地域ネットワーク等を活用して投資の機運を高め、地域全体への横展開で他企業の投資を積極的に呼び込むことが必要。（金融機関）
- ・新規就農者を定着させ産地を維持するには生活支援が欠かせない。経営相談や技術指導に加え、生活面のサポートや具体的投資を実施することが、地域への定着を後押しする鍵となる。（農業団体）

4 今後の予定

- ・6月補正予算「地域産業成長プラン推進事業」（予算額：3億円）により、地域産業成長プランなど地域未来戦略に基づく民間企業が行う市場調査、ブランド化などのソフト経費やハード整備費用等を、地域未来交付金なども活用しながら支援していく。
- ・国は、今後も随時事前確認を受け付け、半期に一度程度まとめて公表されることから、引き続き「とっとり地域産業成長プラン」検討素案を幅広く周知するとともに、民間事業者からの提案受付を継続し、プランの策定を進めていく。

鳥取県「ミールワームを活用した環境分野における地場産業成長プラン」の概要

1. 支援する分野環境



2. 支援する地域及び核となる事業者

＜支援する地域＞：県西部地区

＜核となる事業者＞：三光株式会社、丸京製菓株式会社、鳥取大学、島根大学 他

地域循環型天然ビタミンD3事業



3. 目指す姿（目標）

- ・高付加価値素材(VD3等)の製造・販売と同素材を活用した高付加価値な健康食品等の製造・販売
- 〔2036年（10年後）までに〕
- ・付加価値増加額：2億円
- ・販売額：10億円
- ・新規雇用：30人

※三光株式会社以外の核事業者による高付加価値商品の販売額、新規雇用人数は今後検討する

4. 勝ち筋

＜基本戦略＞

- ・核事業者のネットワークを生かし、県内事業者等が連携し、ミールワーム由来VD3等の素材及びそれを原料とした食品・健康食品等の試作品開発、市場調査、販路開拓を進める
- ・子供・働く世代・高齢者等、VD3が不足している幅広い層をターゲットに高付加価値商品の開発・販売を目指す

＜取組の具体像＞

- ・初年度、食品・健康食品等の商品開発・市場調査・販売促進等
- ・次年度以降、ミールワーム養殖施設、VD3等製造施設、食品・健康食品等製造施設を実装

5. 政策手段

- ・商品開発・研究・市場調査・販売促進に対する支援
- ※ネットワーク（大学、業界団体等）構築に係る支援

- ・養殖・素材製造施設、商品製造施設の実装に対する支援

鳥取県「ミールワームを活用した環境分野における地場産業成長プラン」における地域内の集積状況

核となる事業者

三光株式会社
丸京製菓株式会社 ほか 県西部地区4 法人
鳥取大学、島根大学、県西部地区動物病院

三光株式会社
【総合環境事業者】
(ミールワーム養殖、ビタミンD3等製造・商品化)

丸京製菓株式会社
【菓子製造事業者】
(未利用食品の提供)



鳥取大学

【学術機関（機能性等に関する研究）】



島根大学

【学術機関（機能性等に関する研究）】

